

令和7年度 第2回  
杉戸町総合振興審議会 会議録

期 日 令和7年7月16日（水）

場 所 杉戸町役場 第二庁舎2階第1・第2会議室

会議録様式

審 議 会 名	令和7年度第2回杉戸町総合振興審議会
開 催 日 時	令和7年7月16日(水) 午後1時30分～午後3時50分
開 催 場 所	杉戸町役場 第二庁舎2階第1・第2会議室
会 議 の 議 題	(1) 令和6年度実施事業の評価 ア 子育て支援センター運営管理事業 イ 生涯スポーツ推進事業 ウ 移住・定住の促進(移住・定住プロモーション事業) (2) 第6次杉戸町総合振興計画後期基本計画(素案)について
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開 (公開の場合傍聴者数 2人)
	(非公開の場合理由)
出席委員氏名	<b>【出席委員】</b> 板橋昇、鈴木豊、宮野尾政子、横井正樹、谷藤恵美、水野順子、中里圭介、菊地信一、青木恵理、新井晃、茂利浩幸、斉藤智章 <b>【欠席委員】</b> 木村三樹男、松村美知子、佐々木誠
審 議 の 概 要	
上記の議題について審議を行った。 詳細は別紙のとおり。	

## 審議概要

### 議事1「令和6年度実施事業の評価」について

■各事業の担当課より説明を実施する。

#### ア 子育て支援センター運営管理事業

■資料5-2、当日追加資料「子育て支援センター運営管理事業について」に基づき子育て支援課が説明。

### 質疑応答

(新井委員)

満足度が高いので、今後もぜひやっていただきたいのですが、よくありがちなのが、民間にもよくあるが、高満足度の裏には意外と犠牲になってる人がいて、実は職員の中で代休がたくさん溜まっていたり、誰かにすごく負担がかかっていたりとか、何かそういうことないのかなと。

そういうのがなければ全然問題ないのですが、中にはすごく頑張っている人とか、その人に頼り切っていたりして、そういった負の部分がないのかなと思って、確認させていただければと思います。

(子育て支援課)

支援センターの職員は、会計年度任用職員になりまして、現在4人の職員がおります。その中で、特にお休みが取れないといった話はございません。

(斎藤委員)

子育て支援センターに何度か行ったことがあります。この子育て支援センター運営管理事業に対して言ってよいのかわかりませんが、駐車場の敷地がすごく狭く、いつも車が一杯で止められないので、どうしたらいいのでしょうか。

(子育て支援課)

駐車場の問題については、現場でも把握しています。ココティすぎとには、商工会、コミュニティセンター、子育て支援センターが建物に入っており、なるべく行事が重ならないようにイベント等を工夫して実施しているところですが、どうしても駐車場が足りないという状況でございます。

申し訳ないですが、今後考えていかなければならないと思っています。

(斎藤委員)

近所の方はよいが、高野台などから来ると車で行くと思うので、現状の駐車場の広さでは足りないです。普段から駐車場は一杯なので、イベントをずらすだけでは解決しないと思います。

(会長)

代替の駐車場を探すような努力をしていただければと思います。

(水野委員)

資料で各講座の人数を詳しく提示していただきましたが、傾向と対策が大切だと思います。毎回同じ方たちが来ていらっしゃる率が多いのか、新しい方がどんどん増えているのか、もし把握していれば教えていただきたいです。毎回同じ方ばかりが来ているのであれば、新しい方に来ていただくために、どんな対策をしているのか、そういうことがありましたら、教えていただければと思います。

(子育て支援課)

リピーターなのか、新しい方なのかは、特にカウントはしていない状況ですが、傾向は把握しています。

今後も新しいイベントを開催したり、SNSを活用したりして、なるべく新しい

方が来ていただけるように情報発信していきたいと思っております。

(茂利委員)

子育て支援センターの相談件数や体制について、様々な相談があると思いますが、例えば障がい児、障害者手帳を持っている子供たちはそれなりの機関で受入れもあると思いますが、手帳の交付はないけれども、障がいがあるような相談といったケースは、この中に含まれているのか。そういった障がいがあれば、通常の子育て支援だけではなくて、障がいに特化したような専門的な知識がある担当者が必要なケースもあつたりします。

この杉戸子育て支援センター、こども家庭センター、ファミリー・サポート・センターだけではなくて、障がい福祉に関わる部分のサポートがないと、親たちも疲弊するという部分があるので、その辺のサポートという部分が含まれているか、逆に今後そういった連携等も考えてるのかお伺いしたい。

(子育て支援課)

資料の相談件数の合計 474 件については、基本的な生活習慣や発達、育児に関する相談などの全般的な内容についての相談をカウントしたものになります。

実際に相談が来た場合、こども家庭センターがこの中にありまして、発達や虐待などの相談について、専門の職員が話を聞き、各種機関や福祉課、子育て支援課へ相談するなどして、繋げる役割を行っております。

漏れがない形での相談業務、繋げていけるような形で体制をとっているところでございます。

(板橋委員)

事前質問の 8 番で、今後の新しい取組についての回答の中で、「子育てひろば、子育て講座などは、アップデートしながら継続しております。」とありますが、そういう部分の中で、最初の受講者たちがリピーターとしてやってくる場合と、最初の受講者たちが指導者として、次のリーダーになって、サークルを行うなどが考えられると思います。講座を受けた後に、その人たちがまた自

発的に集まって次の段階へ進めるようなそういったサポートをしていくことで、さらにアップデートができるのではないかと感じるので、そういった視点があるのか教えて欲しい。

(子育て支援課)

ここでのアップデートとは、具体的に言いますと、乳幼児食や離乳食、幼児食の相談を受けることが多いので、令和7年度につきましては、管理栄養士による食育に関する講座を取り入れているところです。そういったアップデートになります。

また、転入者がいた場合については町の子育て情報を知ってもらうために、ころふわ広場というのも始めているので、こういったところでアップデートしていると考えています。

先ほど板橋委員が言われました、受講者をさらにリーダーへというところまでは、現時点ではまだ考えておりませんので、今後検討させていただきたいと思います。

(板橋委員)

やっぱり受講者の中から、次のリーダーが育つような形でサークル化していくというのの一つだと思います。

## イ 生涯スポーツ推進事業

■資料6-2に基づき社会教育課が説明。

### 質疑応答

(水野委員)

事前質問4の回答について、苦情等があると記載がありますが、やはり受益者負担を原則に立ち返ることが必要だと思います。

このスポーツ推進事業だけではなく、すごく安かったり、タダだったりすると、かえって苦情が多いという統計が出ていると思います。

ですから、やはり受益者負担をもう少し考えていくべきだと思います。

もう一点は、ご説明の中で、利用者団体の方にクレームをいただいてという話がありましたが、その利用者団体の方にご協力をお願いするという方法もあってもいいのかなと思います。

それは、学校などでは、親父の会ですとか、それから子どもの保護者に来ていただいて、草取りをやってもらうとか、そういった取組が今当たり前になってきていると思います。

ですから、利用団体から草がひどいというクレームがあるとのことでしたが、利用団体にも草取り等をやってもらうような仕組みがあるのか、又はそういう考えはあるのかを質問させていただきます。

(社会教育課)

受益者負担の関係については、令和5年に利用料金について検討したところですが、やはりコロナ禍ということもありまして、結論から言いますと、現状維持の料金になったところでございます。

また、委員のご指摘の通り、やはり料金を今後見直していかないと、この維持管理も厳しいかなと思っておりますので、担当課といたしましては、その辺も含めて今後検討していかなくてはいけないとともに、また利用者の方にも、その辺についてはご理解いただいている団体もだいぶありますので、今後検討させていただきたいと思っております。

また、維持管理の面についてですが、やはり今この時期は、特に除草作業ということで、利用者の方からいい状態でプレーしたいという話の連絡が結構あります。そこで、全部の施設ではないのですが、一部の施設においては利用団体のボランティアで自分たちのグラウンドという意識を高めていただき、除草作業やグラウンドのメンテナンスなどを行っている施設もあります。

今後においては、委員からのご指摘を受けて、もう少し各施設においても開放会議等も行っておりますので、その中で、作業を行っていただくよう少しず

つ広げていきたいと思えます。

(宮野尾委員)

スポーツフェスティバルやマラソン大会などを催すときに、杉戸町全体のイベントなので、どこの地域からでも参加していただきたいと思うが、町の市街地の方はとても盛り上がるが、泉地区などの方の参加が少なく、地域の偏りをいように感じています。

なかなか難しいとは思いますが、町全域の方に参加を促す方法は、何かあるのでしょうか。

(社会教育課)

イベントの周知方法につきましては、広報誌やホームページ、X等で幅広く周知させていただくとともに、チラシの折込等も町内全域で配布させていただいております。

地域の偏りについてですが、杉戸町のエコ・スポいずみで定期的に各種イベントを開催しております。

8月から2月にかけて、様々な健康体操、ヨガ、ストレッチ、フロアカーリング、卓球大会などエコ・スポいずみの施設を利用して様々な健康スポーツを開催しております。こうしたイベントの際は、特に泉地区や東地区の方が数多く参加している傾向でございます。

(宮野尾委員)

泉地区で催し物をやっているの、そこには皆さん参加しているということだと思いますが、ただ町全体の催しに対して、広報等を見て泉地区や東地区の方が参加してくださるという気持ちになるのは、なかなか難しいような気がしています。

(社会教育課)

地元の区長さん、また民生委員の方々、地域の代表の方とそこにお住まいのスポーツ関係の方とか、そういう方にご説明や情報提供しながら、一人でも多くの方が大会やイベントに参加していただけるように担当課としても精一杯努力したいと思います。

(斎藤委員)

大会等のメイン会場を毎年変更することはできるのでしょうか。

(社会教育課)

マラソン大会の会場については、以前は高野台小学校であったり、役場の周辺であったりをメイン会場としていた時期もあります。

しかし、マラソンについては、交通規制という問題がありまして、高野台の外周で実施した際は、高野台の中にお住まいの方が外に出れないということで、非常に住民から苦情が多くありました。

役場を中心にメイン会場としたマラソン大会では、役場前の県道を規制することで長時間通行止めする許可が警察から下りなかったという経緯がございます。

そこで、杉戸小学校に移った経緯がございます。

(斎藤委員)

今、クレームはないのでしょうか。

(社会教育課)

ないわけではありませんが、現在のマラソン大会のコースは、主に田園風景を走るということで、比較的警察の交通規制に関する許可も下りやすいということで、ここ数年は杉戸小学校を中心とした第二小学校周辺の田んぼの中を走る

コースで定着はしております。

ただ、駐車場の問題がございまして、参加者からもう少し駐車場を増やして欲しいというリクエストはいただいているところです。

あとは、駅から近いということで、電車で来る方においても、参加しやすいと高評価をいただいているところでございます。

今後においても杉戸小学校をメインにして大会を開催しようと考えております。

他のイベントについては、以前の町民体育祭を杉戸第二小学校で行っていましたが、町の中心の第二小学校でやることによって、地域全体の行政区の方が行きやすいということで、体育祭を開催していましたが、駐車場不足という問題がありまして、2022年から変更したスポーツフェスティバルでは、駐車場が比較的多くとりやすい生涯学習センターに移行して大会を運営しております。

会場で何年か実施してみないと、問題や課題面が整理できないため、毎年会場を変更してしまうと会場の準備や段取り、周知などの面で参加者に混乱を招くというデメリットもありますので、毎回会場を変更するのは、厳しい面もあると考えています。

(中里委員)

関連する成果指標について、週1回以上スポーツする人の割合を設定しており、基準値より向上しているということですが、計測の仕方をお伺いしたいのと、令和5年度の実績と比べてどれぐらい向上しているのでしょうか。

(事務局)

今の質問については、総合振興計画の成果指標の関係になるので、事務局から説明させていただきます。

この成果指標は、総合振興計画を策定する際のアンケート調査の結果をもとに、算出しております。このアンケート調査については5年に一度実施しているため、ここでいう基準値は平成30年度の数値で、35.6%になっており、令和7年末には45%にすることを目標としております。

アンケートは5年に1回実施しているため、5年度の数値はないため、5年度と6年度を比較することは困難です。そのため、6年度の数値である37.1%と平成30年度の基準値を比較して、向上していると評価している状況になります。

(中里委員)

おそらく実施している事業は、毎年同じようなイベントを繰り返したりするということが多いと思いますが、何か新しい取組などを行っていくとまた活性化していくと思います。その中で、週1回以上スポーツする人の割合で考えると、町の人口構造的には高齢者も増えてきているので、高齢者が参加しやすいようなイベント等を増やしていくと割合的には受けやすいというのがあり、高齢介護課や福祉課と連携しながらやっているようなので、より深めていくといいのかなと思います。

(茂利委員)

町民体育祭が2022年から変わったということで、変更前と後での反応について、前の方がよかったとか、後の方がよかったとか、実際どのようなものがあるのでしょうか。

以前の町民体育祭については、各行政区の対抗みたいなイメージで実施していて、私も地元の区から参加していましたが、区によっては、地域連携みたいな形で、種目をその地域でやっぱり選手団みたいな形で、結構盛り上がった部分も感じていました。

ただ聞くところによると、一部地域では勝敗を、やはり優勝を目指すために過度な練習で若手が参加しにくくなったり、プレッシャーがかかったりといった声も聞いたりしており、広くいろいろな人たちが参加できるような形で、団体ではなく、個人参加もしくは任意の団体を組んでという形にして、今はやっているということで、その辺のところはすごい理解できるのですが、地域連携みたいな形を考えたときに、やっぱりその辺が薄くなってきたと感じています。

良し悪しは両方ともあると思いますが、生涯を通じて学び、郷土に愛着を持つという意味合いに関して、人の繋がり、地域で連携していくという部分をもう

少し打ち出せたらよいのではと思っています。

例えば、この種目については、年間を通して毎月少しずつ地元でやることによって、ここがイベント発表の場になるみたいな種目があれば、普段から地域の仲間で集まって何か練習して、年に1回のイベントをやるようなものがあるのもいいのかなと個人的には感じています。

地域連携と健康をつなげていけるような形ができるといいのかなと思いますので、そういった方向性があればお聞かせいただきたいなと思います。

(社会教育課)

今回のスポーツフェスティバルの趣旨は、まずは種目の特性を知って体験するというので、子供からお年寄りまでの年代でスポーツを身近に感じていただくというのが趣旨で、町民体育祭から変更したものでございます。

今後、地域の連携というのも視野に入れながら、もう一度フェスティバルの内容をちょっと精査して、検討したいと思いますので、ご理解いただければと思います。

以前の町民体育祭は、競技対抗が盛り上がっていました。地域で連携して、練習するというのが一番のメインだったところですけど、40行政区のうち、参加する行政区が20ぐらいで、そのうちリレーや大玉転がしに出るのが10ぐらいと、どんどん減ってきている状況で見直したところですが、御指摘いただいた内容についても今後必要かと思しますので、スポーツフェスティバルの見直しも含めた中で検討していきたいと思います。

(茂利委員)

私は含まれていればよいと思っています。

## ウ 移住・定住の促進（移住・定住プロモーション事業）

■資料 7-2、当日配布資料に基づき、総合政策課が説明。

### 質疑応答

（青木委員）

配布先として、町内の公共施設、冊子の掲載店舗等、ホームページ、町立幼稚園・保育園・小中学校等とあり、町内向けということで、定住を企図されていると思います。

一方で KPI に掲げているのは、年少人口の転入超過者数であり、移住を促進する必要があります。

それを踏まえ、外向けに PR する必要がありますが、外向けは配布先として東京にある埼玉県の移住総合相談窓口と外部の会議での配布などになっています。

そのため、町外の人へ情報が届いているのか、疑問を感じています。

すごく素晴らしい冊子をつくっていて、私も仕事の都合で杉戸町に来てますが、この町に来て、こんなに面白いことがあるんだというふうに発見の連続になっています。

やはりそういったことを県外だとか、杉戸町に住んでいない方によく知ってもらう策は、町内だけではすごくもったいないと感じています。

私が朝のテレビ番組を見ていると、移住特集をやっており、先日も境町を取り上げていたり、逗子市を取り上げていたりしています。その中で、結構都内から引っ越してきましたとか、例えば逗子市であれば、都内に出勤するのに 1 時間ちょっとで出勤できるからであったり、最近はテレワークなので都心から少し距離があっても大丈夫であったり、やはりそういうのを見ると、こういう面白いところがあると気づくこともできますし、また住んでる町民の方からすると自分の町が取り上げられると、とても誇りに感じると思います。ある程度人口が増えてきて取り上げられるのか、それともこの町がプロモーションで売り込みしているのか、どちらが先で取り上げているかわかりませんが、住んでる人にとっても町が全国的に取り上げられて嬉しい、誇りに感じてもらえるとか、杉戸町を知らない人が知る機会というのがもう少しあるといいのかなと、率直

に冊子の配布先を見て思ったところなので、意見させていただきました。

(総合政策課)

外向けにも PR をこれから頑張っていこうと考えております。

外向け、都内に住んでる人向けに広告等をすぐに出していくことは困難なところですが、今のところ本決まりではありませんが、9月には埼玉県と共同で東京都内である移住のイベントに出店させていただくように調整中であったり、浦和で開催されるふるさと納税のイベントであったりというところで、PR イベントがブース出展をするタイミングで、今は産業振興課が大宮ソニックシティで物産の企画をやっているの、そういった際に冊子を置かせていただき、さいたま市や東京都内の方にもどんどんPRしていきたいなというふうに頑張っているところです。

また、町内の人向けにも、草の根で口コミを広げていき、自分の住んでる町や出身の町に若い人が誇りをもてるようなことを進めていきたいとは思っているところです。

(板橋委員)

転入した方たちの満足度はどういったものなんでしょうか。

転入してきてよかったとどれぐらいの人が感じているのか、あるいは普通だとか、そういう口コミみたいなものが結構大切だと思います。

(総合政策課)

例えば計画作成のタイミングでアンケートを実施して、満足度などを調査することはありますが、転入者に限定してアンケートを取ったことはなく、転入者がどう思っているのかは把握していない状況です。

御意見のとおり、転入者の満足度を知ることは、大切だと思いますので、何かのタイミングでスポット的にでも期間を定めて、聞いていくことができればいいのかなと思います。貴重なご意見として、今後の参考とさせていただきます。

す。

(板橋委員)

杉戸のことを知って好きになるといったいろいろなことが目標として挙げられていく中で、杉戸のことを本当に知って、好きなんだろうかというチェックも必要だと思います。

ですから、その人たちが本当に杉戸を愛してるかなというのを口頭でもいいと思うので、確認が必要だと思います。

(総合政策課)

やはり引っ越してきただけとか、奨励金制度があったからではなく、このあと地域で何をしていくか、地域が好きかどうかという点がとても大切だと思っていますので、何かしら聞けるように取り組んでいきたいと思っています。

(板橋委員)

効果的なのは、その人たちにPRしてもらうことが一番だと思います。

(斎藤委員)

雅楽の湯に冊子を置いてはどうか。

(総合政策課)

雅楽の湯には、冊子の最後のページで紹介しており、そのお礼も兼ねて冊子を置かせていただいています。

(会長)

埼玉県内 63 市町の中で一番にならないとね。

さっき青木委員がおっしゃったように杉戸に来てもらわないと意味がなくて、

独自の政策というのが、さらに望まれると思います。

(板橋委員)

PR 冊子で、この町で 100 番目になる自分だけのスギトゴトを探しに出かけませんかという文章がありますが、杉戸町の良さは 100 個だけではないと思う。

101、102 といっぱいあって、いくつも積み重なっていくことによって、また自分たちが知らなかった魅力がでてくると思います。

そのため、101 番目、102 番目をどうやって取り上げていくのでしょうか。

(総合政策課)

まず、今回実施している読者 Web アンケートでも、あなたが見つけた 100 番目のものがありますかという設問を作っています。

そういったものがどんどん集まっていけば、101 番目、102 番目という形になっていくのかなと思いますし、冊子は発行してブラッシュアップはなかなか難しいですが、冊子の記事は基本的にウェブに繋がる内容になっていますので、今後、Web 記事という形で、アンケートでいただいた情報やこんな人がいるよというものを私達が取材し、Web 記事で取り上げて、数を増やしていけたらなと思っております。

(板橋委員)

定期的に更新して、いや 101 番目、102 番目と変化していく、そういった形が必要だと思います。

## 審議概要

### 議事 2 「第 6 次杉戸町総合振興計画後期基本計画（素案）について」

■事務局より、資料 8、資料 9 に基づき説明。

- ・資料 8 で審議会委員の意見への回答、資料 9 で計画（素案）の概要を説明。

#### 質疑応答

質疑なし。